Black Lives Matter を知るための映画と文献案内

アメリカの黒人を取り巻く状況、人種主義を考えるヒントになる映画を挙げました。歴史を扱った映画や文献はすでに多くの紹介があるので、ここではおもに近年発表された、とくに公民権運動以後のアメリカと人種主義を扱った作品を紹介します。

映画（ドキュメンタリーを含む、括弧内は原題）

『フルートベール駅で』（*Fruitvale Station*）（2013）
『グローリー　明日への行進』（*Selma*）（2014）
『私はあなたのニグロではない』（*I Am Not Your Negro*）（2016）
『ドリーム』（*Hidden Figures*）（2016）
『ムーンライト』（*Moonlight*）（2016）
『13th～憲法修正第 13 条』（*13th*）（2016）（Netflix ドキュメンタリー）
『デトロイト』（*Detroit*）（2017）
『ブラインドスポッティング』（*Blindspotting*）（2018）
『ビール・ストリートの恋人たち』（*If Beale Street Could Talk*）（2018）
『ヘイト・ユー・ギブ』（*The Hate U Giv*e）（2018）
『黒い司法　0％からの奇跡』（*Just Mercy*）（2019）
『ボクらを見る目』（*When They See Us*）（2019）（Netflix ミニドラマシリーズ）

参考文献（翻訳出版年のみ明記）

アンジェラ・デイヴィス、上杉忍訳『監獄ビジネス～グローバリズムと産獄複合体』（岩波書店、2008 年）
マイケル・エリック・ダイソン、藤永康政訳『カトリーナが洗い流せなかった貧困のアメリカ～格差社会で起きた最悪の災害』（スペースシャワー・ネットワーク、2008 年）
ジョン・ルイス他、押野素子訳『MARCH』全 3 巻（岩波書店、2018 年）
タナハシ・コーツ、池田年穂訳『世界と僕のあいだに』（慶應義塾大学出版会、2017 年）
兼子歩・貴堂嘉之編『「ヘイト」の時代のアメリカ史　人種・民族・国籍を考える』（彩流社、2017 年）
アンジー・トーマス、服部理佳訳『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ　あなたがくれた憎しみ』（岩崎書店、2018 年）
ナナ・クワメ・アジェイ＝ブレニヤー、押野素子訳『フライデー・ブラック』（駒草出版、2020 年）
藤永康政「ブラック・ライヴズ・マター蜂起の可能性」『世界』935 号（2020 年 8 月）
「特集　ブラック・ライヴズ・マターとアフリカン・アメリカンの歴史」『ミュージック・マガジン』（2020 年 8 月）
「総特集＝ブラック・ライヴズ・マター」『現代思想』臨時増刊号（2020 年 9 月）